

博物館だより



No.151

令和元年6月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS

「改元」記念特別展

「昭和・平成から令和へ」改元と吉田増蔵展

会期・4月29日(祝:昭和の日)〜6月16日(日)

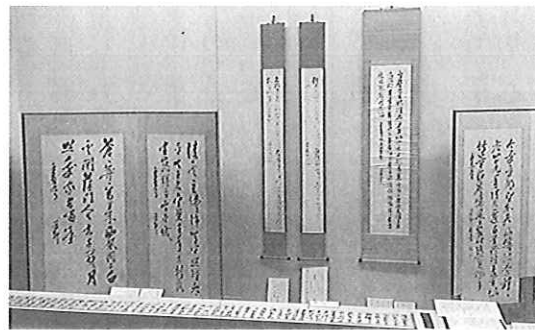
当館では、新元号「令和」の改元を記念した特別展を開催しています。(6月16日まで)

企画展では「昭和」の元号及び「平成」在位の天皇陛下の称号・名前を考案した、みやこ町出身の漢学者、吉田増蔵が青年期に作成した漢詩の草稿やその兄健作がフランス留学の際に購入した図書など、異なる分野で大きな足跡を残した兄弟ゆかりの資料を展示しています。

また新元号「令和」の典故となった詩を作った大伴旅人がみやこ町を経由して大宰府へ赴いたことがうかがえる豊前国府を



▲「万葉の衣食」再現コーナーにて役人の食事は今みても「ごちそう」です



▲吉田増蔵の自筆及び関連の書の展示。圧巻です!

はじめとしたみやこ町の史跡やその出土品も併せて展示しています。期間中は「万葉の衣・食」を再現した展示や元号発表の舞台を再現した「歴史的瞬間体験コーナー」も開設し、「元号」や「万葉のみやこ町」について子どもから大人まで楽しみながら学習していただく展示となっておりますので、お誘いあわせの上、是非ご来館ください。

■観覧料

常設展の観覧料をご覧ください。

◆講座・教室・催し物ガイド 6月の歴史講座

「漢詩紀行講座」

6月1日(土) 9時30分

「古典かな講座」

6月15日(土) 9時30分

「古文書講座」

6月16日(日) 10時

「みやこ学講座」※現地見学会を予定
6月22日(土) 10時

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途ご案内します。

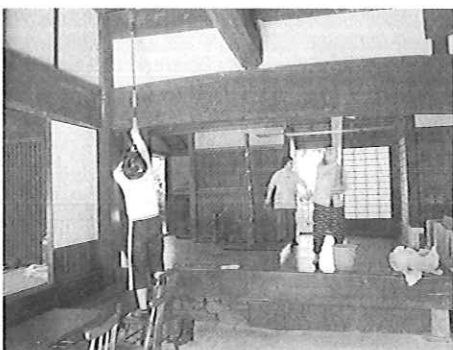
文化遺産ボランティア養成講座(第4期参加者募集!)

今期講座は「独立・実稼働編」の文化遺産ガイド&ガードに自立的・計画的に取組みます。ヤル気と元気がある方なら町内外不問、途中からの参加もOKです。あなたも「町のお宝の魅力」をアピール&ガードする取組みに一緒にしませんか!

※6月15日(土)以降月1回程度。

申込時に詳細案内します。

※申込先 ☎33・4666へ。



▲第3期講座【ガード編】での実務体験(永沼家住宅清掃支援)

4月の業務日誌から

4月13日(土) 犀川花熊の二児神社周辺で「馬ヶ岳花まつり」が開催されました。イベントのバスハイクでは、勝山地区の古墳を巡り石室の規模大きさに驚きの様子でした。

大好評の「元号発表体験コーナー」。連休中の「平成最終日」及び「令和初日」は特に多くの方々の来館があり、互いに写真を撮り合う人々で、にぎわいました。



▲巨石で築かれた石室に「昔の人々の技術はすごい!」と驚きの様子でした



▲「平成」から「令和」へ 気分は官房長官!!

みやこの歴史発見伝 117

140年前に
外国人が調査した
みやこの町の古墳

—イギリス大英博物館収蔵資料から—

外国人と日本の観光

現在、東京オリンピック開催に向け、国内各地で外国人観光客獲得に向けた様々な取組が模索されています。各自治体ではこれを一つのきっかけとしてとらえ外国人の視点で、再度、町の史跡や特産品などと向き合い、新たな「魅力」や「お宝」の再発見に努めています。勝山黒田にある綾塚古墳（国指定史跡）は140年前に一人のイギリス人によって調査され、さらにこの人物によってその重要性が海外で紹介された国内でも数少ない古墳の一つです。

今回はこの人物とイギリスに残る調査記録から、再度、この古墳の重要性を探ってゆきたいと思えます。



▲ウィリアム・ガウランド (1842~1922)

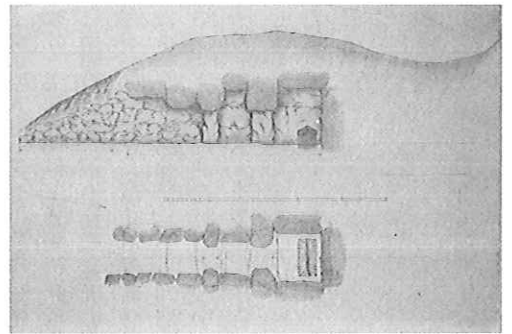
「お雇い外国人」

明治維新後、新政府は、全国画一の貨幣を製造するため明治3年（1870）大阪造幣寮（現在の造幣局）を建設しました。さらに貨幣の製造技術の教官として七人の技師を「お雇い外国人」として招聘します。この中の一人がウィリアム・ガウランドという人物でした。

ガウランドは、来日後、日本の様々な方面に興味を示し、特に山岳界では、外国人初の槍ヶ岳登頂に成功したり、「日本アルプス」の名づけ親として知られ、「日本における登山の先駆者」とも称されています。このような公私における様々な業績の中でも特筆すべきものが余暇を利用して日本各地の古墳調査を行い、その記録を残したことでした。彼は群馬県から宮崎県までの横穴式石室406基を調査し、そのうち130基は実測図を作成しています。

綾塚古墳の調査記録

彼が計測したこの130基の中の一つにみやこの町勝山黒田にある綾塚古墳があります。この古墳は全長19mを測る国内屈指の複室（二つ以上の部屋を有する）構造の石室を主体部にもつ古墳ですが、ガウランドは特にこの古墳を全国にみられる複室構造の石室の指標



▲ウィリアム・ガウランドが作成した綾塚古墳石室実測図（19世紀末）大英博物館蔵
© The Trustees of the British Museum. Shared under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International (CC BY-NC-SA 4.0) licence.
写真提供：日英共同調査グループ Gowland Project
協力：明治大学博物館

古墳に位置づけ、特に詳細な実測図を残しています。この図面は、平面・断面の二方向の展開表記が用いられるなど、当時としては非常に画期的な手法が用いられています。また石室の計測値も正確なもので今日の実測図と比較しても遜色のない非常に完成度の高いものであることが確認できます。この図面は帰国後の1899年に彼がイギリスで発表した『The Dolmens of Japan and their builders (日本

のドルメン (古墳) とその築造者たち』という論文に添付されており、その原図は、現在、イギリスの大英博物館に収蔵されています。論文の中では、「綾塚古墳周辺に多数の古墳が密集していることから、この時代に勝山黒田地区が非常に重要な場所であったことが分かる。」という見解を述べています。この図面に用いられた二

方向による展開表記法をはじめ、彼が編み出した数々の発掘・記録方法は、現在もお日本の考古学界で用いられていることから「日本考古学の父」とも呼ばれています。

日本初となる大英博物館資料の活用例

綾塚古墳の見学者増加に対応するため、平成30年度に駐車場整備工事を実施しました。今回、駐車場に設置する説明看板にガウランドの実測図の掲載を試み、明治大博物館の協力を得て大英博物館に掲載申請を行ったところ、許諾が得られ掲載が実現しました。これは、大英博物館所蔵資料のガウランドの実測図が国内の古墳の説明板に掲載された国内初の事例となり綾塚古墳の新たな特色が追加されることになりました。

外国人が評価した古墳

5月14日、大阪府堺市の「百舌鳥・古市古墳群」の世界文化遺産への登録勧告が発表されました。「宗像・沖ノ島と関連遺産群」の古墳など、近年世界遺産登録の対象となっている例もみられますが、綾塚古墳のように140年前に、イギリス人がその重要性を認め、さらに詳細な図面まで残されている

という事例は県内でも非常に稀なものです。その後、大正13年（1924）秋にはアメリカ、シカゴ大学のフレデリック・スタール博士が調査・見学して、「世界的に重要な歴史の参考資料である。」と述べその規模の大きさに驚いたことが地元で伝えられるなど、二人の外国人によって、その歴史的価値が評価された古墳としても注目されます。

ガウランドが綾塚古墳を調査した時期は明治維新後のまだ政治的に不安定な状況下であり、外国人が襲撃される事件もみられたため、文字通り「命がけ」の調査であったことがうかがえます。まだ鉄道が通っていない頃、自らの休暇を割いて命の危険も顧みず、みやこ町まで足を運ぶさきかけになったものは、今日もなお人々を魅了する巨石で築かれた石室の勇壮な姿であったのかもしれない。

【井上信隆】



▲駐車場と学習支援の状況